

甲南大学生協 第12回甲南大学書評対決 BOOK SELECTION

第399号



[読書推進]

取り組み概要

日時：4/21(火) 12:20～12:50
場所：甲南大学iCommons 2F
参加者数や組合員の反応：
約20～30人

背景や概要：年に二回行われている取り組みであり、今回は体育会応援局の3人と文学部の先生が書評のプレゼン対決を行う様子を参加者が見届けた。審査員は図書館の職員が務め、プレゼンされた6冊の書籍は会場内で販売も行われていた。

観戦から読書へ、興味と次の一歩を支える。

POINT.1

多様な本に触れるきっかけとしての第一歩



今回の書評対決では、小説のみならず詩集、自己啓発本も選書された。普段学生が手に入る機会の比較的小さい多様なジャンルの書籍と出会う機会が提供されている。

また対決の中では学生が自身の読んだ本についての書評をプレゼンしているため、他の参加者は同じ学生として本に親しみと興味を持つことができる。対決を見守る参加者にとって、学生同士の学び合いの構造がとられている。

POINT.2

様々な人の「参加」を巻き込んだ実施

書評対決には学内外の多くの人物が携わっている。それは実際に対決を行うために登壇した体育会応援局の学生や文学部の先生だけでなく、生協職員や審査員の図書館の職員、また司会として読書会に所属する学生も巻き込んで行っている。

さらに6冊全ての選書に対して各出版社から応援メッセージをもらっており、多くの協力によって複層的なアプローチがなされている。



POINT.3

興味から、実際に手に取るまでをサポート



参加者の中からじゃんけんで勝った3人には、今回選書された6冊全てのプレゼントを行っている。また、参加者にはもちろん書籍購入補助500円券が配布されており、会場内でも書籍の販売を行っているため、参加者が選書に興味を持った際にその熱が冷める前に購入することができる。

書評対決という読書の興味のきっかけを提供するだけでなく、書籍のプレゼントや購入補助券の配布などによって参加者が実際に本を手に入るまでのサポートをしっかりと行っている。